

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。</p> <p>②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。</p> <p>③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は83点であり、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達していた。</p> <p>知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。</p> <p>実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価における平均値は問題がないと考えられる。
学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であると考えられる。
また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであると考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、実際にキリスト教礼拝にふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。
ただし、そのこと(新しい視点)を得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。</p> <p>本授業は、初年次セミナーIおよびIIで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とする。初年次セミナーIIでは、『初年次セミナーI』の学びを基礎として、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズ『発表する』『討論する』を強化し、より一層、主体的かつ能動的学習を展開している。基本的スキル（聞く・調べる・読む・書く・考える）の強化ならびに定着を図り、さらに、プレゼンテーションに発展させる。また、グループ内での討論を通して、物事を多面的・多角的に捉えて思考する力を身につけ、それらの考えを相手に分かりやすく伝える力を身につけることができるようにサポートを行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は83.5(±5.9)点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。</p> <p>全員標準的レベル以上(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は29名(78.4%)であった。</p> <p>「自己達成度」は平均値が全項目で3.5～4.0の間(中央値4)にあったが、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは64.9%(24名/37名)の学生が何もしていなかった。</p> <p>シラバスの情報を参考にした者78.4% (29名/37名)、あらかじめ授業の計画を立てた者54.1% (20名/37名)であった。</p> <p>本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、かつ管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。さらには、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考えます。

③まとめ
以上から、内容的妥当性は問題ないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価については、平均値が3.9~4.2であったことから、授業の進め方は良好と考える。
しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ13.5% (5名/37名)、27.0% (10名/37名) いた。
また授業の課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も70.6%(24名/37名)と非常に多く、その理由として、「何をしていたかわからなかった」、「他の課題で忙しかった」、「特にすることがなかった」の意見が多かったことから、学習への動機付けが重要と考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、ゼミ、更には就職後も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、充実した内容に進化したい。
本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義では得られない「学生と学科教育」に重要な時間を当てることができたと考えます。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講に体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係を把握させる。</p> <p>②実技中は受講生にカロリーカウンターを貸し出し、各授業時間の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーを把握させる。</p> <p>③始業から3回の講義時間を「筋力トレーニングの方法とトレーニング機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした運動強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外に、また生涯にわたり自ら運動を処方できるよう計画した。</p> <p>④各受講者は毎授業時にカロリーカウンターを装着し、目標を持って授業に望むように促し自己の運動量の把握することで、運動意欲を喚起する。</p> <p>⑤1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるようにする。</p> <p>⑥チームスポーツが入学直後であることを考慮し、チームのメンバーは種目毎に入れ替え、多数の人とコミュニケーションを取るようにする。チームミーティングを試合前後に行わせ、チーム戦略立案、各自の役割、チーム員としてのポジティブな行動を実践させる。また、試合後のミーティングで改善点(課題)などをまとめ記録し、そのフィードバックの成果を実感し、チームで活動する意義を考えさせる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均79 (SD22.0) 再試対象者1人、80点以上12名 (19名中) 目標とは言い難い。</p> <p>受講動機；興味関心55%、単位確保55%、友人履修27% 必修だからではなく科目の意義関心で受講を決めたものが半数おり好ましい状況に近い。</p> <p>達成度の自己評価；4.1～4.5 (4.0以上10項目/10) 高評価、自己目標の達成感をほぼ全員表明。</p> <p>授業の質；4.5～4.9 (4.0以上5項目/5) 高評価、プレゼンと討論の能力の育成を加えたい。</p> <p>学習量；授業時に学習記録、運動記録、試合記録をタイムリーに行うので、もっと授業中の学習の工夫が必要。</p> <p>情報利用；シラバスは半数近くが参考にしている。シラバスの充実が必要。</p> <p>図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について
本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識であり、また、生活信念、健康志向、美容的自己管理に関わりのある科目内容と考える。受講生は興味関心から科目を選び、高い成績を収めていたことから、妥当な内容と考える。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性について
成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高いので、もう少し内容を深く進めることができると考える。

③受講動機で内容に関心がある学生が多いが、「受講動機」が曖昧な学生も存在する中、「学習到達度の自己評価」は11名(17人中)が達成できたと考えており、本科目が妥当な内容であったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予習を全くしなかった者が12名(16名中)であった。
毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことで関心が高まっていれば幸いである。
シラバスを参考にしなかった者が8名(12名中)、授業計画を立てなかった者が8名であった。
オリエンテーションにて十分な説明をしたせいなのかシラバスの利用者は13名と少ないと思われる。
次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度をうみだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回到女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが準備になることを確認した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。試験前に、授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることで理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後にネット等で調べた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解している層が厚いものの理解不足の学生も一定数いた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で映画や雑誌の製作者の意図を考えさせた。おむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。他学科も合わせると人数が多いため、双方向のやり取りができないのが課題である。改善策としては、前回の授業課題レポートをもとに振り返る時間を確保するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

女性史は範囲が広いいため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識の原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的にも家父長制の歴史を触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は21名（回答率87.5%）であった。受講動機を見ると、「単位数を確保する」42.9%、「資格取得に必要である」38.1%、「関心のある内容である」19.0%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われるが、ほぼすべての学生が教室の後方1/4に固まって着席していたことは残念である。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度はすべて対面で授業で行ったが、成績評価は昨年度と同様に、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートを用いた。素点の平均点は69.04点であった。不可と評価した者は1名（ほか出席数不足の学生が1名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は0名であった。学生による到達度自己評価については、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がいずれも4.0であった。他の項目の平均値も3.8-3.3の間であった。昨年度よりやや数値が低下している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。加えて、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値がともに4.0、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.8、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.6であった。全体的に昨年度より数値が低下しているが、他の学科に比べて全体的に成績が振るわなかったことも背景にあると考えられる。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は17名、復習を全くしなかった学生は15名であり、履修者の大多数が予習・復習をしていないことになる。今後は予習・復習の必要性と具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。また、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生は15名、取り組んだ学生は5名であった。授業以外に学習していない理由として「時間がなかった」、「取り組み方がわからなかった」、「授業の中で理解できたから」などの記述が見られた。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「知らなかった言葉を詳しく調べた」、「興味のある分野について調べた」、「わからない単語をインターネットで調べたりした」などの記述がみられた。学生からは、「ありがとうございました」、「日本国憲法についてよく学びました」とのコメントがあった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養としての、基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>ほとんどの学生の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では2つの項目についてそれぞれ1名の学生が「少しそうでないと思う」と回答しているのを除いては、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだこととこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」という項目と「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、若干名の学生が否定的に回答している。200名を超える受講生であったため、学生が発言する機会を作ることが難しかったため、アプリ等を使って学生が自分の考え等を授業中に表明できるように工夫したが、実験的な面もあり十分ではなかったと言えるのかもしれない。その部分を補完するため、Googleクラスルームやメールで常時質問等を受け付けるようにして対応した。テストや提出物の評価基準については、詳細に説明した書類を配布し口頭でも説明したが、繰り返し説明するようにしたい。受講生が多いので、授業中に質問しにくいことが考えられたので、Googleフォームで質問を受け付けるようにし、次の授業で解答するようにしていたが、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について否定的な回答をした学生が3名いた。記入欄がわかりにくかった可能性もあるので、毎回注意を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目で、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、講義をすべて対面で実施することができ、昨年度と比べ学生とのやり取りも反応も見ながら進められた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いために個別的な対応がすべての学生とはできなかった。次年度はより多くの学生との活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①公衆衛生学Ⅱは国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解、思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」は96.2%で、「資格取得に必要である」50%で、「単位数を確保する」は13.5%で、「関心のある内容である」9.6%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①本試験の成績の平均値は75.2 (±12.8) 点であった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していなかった。</p> <p>②今回の試験問題は標準問題だったので、予測した成績である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者は100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必須科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、関心意欲、態度に関しやや達成された。しかしながら、管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.1で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.5であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.8で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.8であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。
学生の意見として「、毎回授業の後に資料や小テストをクラスルームにあげてくださるので、授業を欠席した時でも、すぐに資料を使って勉強できるので助かります」という意見があった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、関心意欲、態度の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。
授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていききたい。
講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学科の教育内容とは異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障を身近なこととして理解出来るよう医療・福祉現場での話を取り入れながら講義した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>教科書の読み直し、予復習、インターネットで調べ学習に取り組み「学びを深めたいと意欲を得ることができた」に自己評価していることは評価できると考える。また、自由記述にもある「年金や保険制度について自分から調べ考えるようにした」主体的に取り組む姿勢を示した学生が一人ではあってもいたことは評価したいと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度」において自分なりに到達できたとする評価が3.8と高かったこと、また、自由記述から「他の科目の勉強で精一杯だった」などの理由を多く出されていたが「授業の中で理解できるように努めた」とする意見があり、学科専門科目に比重がある中でこの科目にも関心をもってくれたものと理解した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

テキストの内容がより理解出来るよう資料などを活用して説明したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成されたと考える。次年度以降、毎回の講義が理解出来たかを確認する方法を検討したい。

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。</p> <p>②講義資料は、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。</p> <p>③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。</p> <p>④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を学生自身が確認できるよう工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度の結果</p> <p>本試験の合格者は38名中34名で再試験者は4名であり、全員再試験を受験し合格した。最終成績の平均点は68.6±7.7点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）にほぼ到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は14名おり、そのうち理想的なレベル（概ね80点以上）が4名いた。来年度は、平均点が標準的なレベル（平均点が70点以上）を超えるよう、工夫したい。具体的には、講義資料を前もって予習してきてもらうなどを考えている。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」などについては、「少しそうでないと思う」以下が最大2割程度いるが、講義の性格上こういう機会が少ないことに大きな問題はないと考えている。</p> <p>③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったため、課題を与えて図書館およびインターネット等の利用を促したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性

本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。

②DP、行動目標から見ての内容の妥当性

成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ

以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.2と、学生にとって満足度が低かったように思う。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。講義で使用したスライドおよび資料は全て印刷をして配布し、予習・復習をできる環境を整えていたにもかかわらず、自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることのみならず、積極的に予習、復習する動機づけを検討したい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、その後の講義を進めた。講義は一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」97.3%、「資格取得に必要である」40.5%、次いで「単位数を確保する」10.8%であった。一方、「関心のある内容である」は、2.7%で、前年度(10.0%)、全前年度(7.4%)より大幅に下がっていた。「関心のある内容である」に関しては前年度、全然年度も低い割合であったのに本年度は一段と低い割合であったわけである。生化学を意欲的な動機から受講する学生が少ないのは最初から予想されたことではあったが今後もこの傾向が増していくのは危惧されることである。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布しているが、今年度もキーワード・キーポイント集を大幅に改訂、増頁して配布あるいはClassroomに掲示した。講義の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。</p> <p>③講義に用いるスライドは、以前対面形式用に作成していたものを全面的に見直し、大幅な改訂を加えて用いた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>定期試験の最終成績の平均点は62点、不合格者は再履修者を含めた受講者43名中17名(未受験者を含む)であり、合格率は、約60%であった。優(80点以上)は7名、そのうち秀(90点以上)は3名であった。昨年同様、成績が高得点と低得点の両極端に分かれる傾向が見られた。17名の不合格者のうち12名は再試験で合格した。再試験での不合格者のうち2名は未受験であった。23名の学生は1回も予習を行っていなかった。復習に関しても15名は1回も行っていなかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。本年度は受講動機が「関心のある内容である」とした学生の割合が特に低かったにも関わらず、学生の受講態度は、予想に反してかなりまじめであり、かつ意欲的な学生が目立った。しかし論理的に考えたり、理解しようとしたりするよりも丸覚えしようとする学生が多いように見られた。予習復習が少なくても、せめて受講の際、できるだけ理解した上で覚える姿勢を促していきたい。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。内容的には妥当と考えて講義を行ってきたが、本試験での平均点、合格点共に低かったため、講義中に質問や練習問題などを行い、理解度を確認することに努めたい。

②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は低かったが、内容の妥当性が低かったとは考えられない(講義内容は例年通りである)。学生に理解させる工夫は多いに必要であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均点が、3.6とであった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表および文章は、毎年見直しと改善を目指した改訂を行っているが、さらなる改善に取り組んでいく必要がある。その一方、学生にも暗記するだけでなく、もう少し理解することも心がけて受講してもらう必要があり、この点を以下に改善していくかを課題として、検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は、合格率、平均点とも満足行くレベルではなかった。しかし学生の受講態度自体は、1年生、再履修者ともに全体的に意欲的であり、これはここ2～3年の印象である。講義中に学生に発言させる機会をさらに設けて、学んだり理解したりしたことを説明できる力を伸ばす工夫を行いたい。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会が重要であると考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
病理基礎医学	1	後期	必修	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、1年生であり、疾病に対しての具体的な知識や興味はまだ持ち得ていないと考えられる。病理学は病気の原因や病態を理解する上で基本となる学問であり、疾病に共通する医学用語や概念についてまず理解していくことを目標とした。その上で2年生で学ぶ「疾病診断治療学」へとつなぐために、疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。</p> <p>②スライド資料を準備し配布した。</p> <p>③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。</p> <p>④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができることも、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。</p> <p>⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業中に指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。</p> <p>学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において93%が「自分なりの目標を達成した」と回答していた。また学習到達度自己評価は、10項目中7項目の平均値が4.0点以上であり、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。「新たな知識の修得」において特に自己評価が高く（4.2点）、「課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」と考えている学生も多い（4.1点）ことがわかり、基礎的な知識を修得できたことで次年度以降の学修につなげる準備を整えることができたと考える。また約6割の学生がシラバスを活用してあらかじめ授業の計画を立てていることから、主体的に学修に取り組む姿勢を促すことができたと考える。</p> <p>本試験の成績の平均値は 77.2 (±12.2)点であり、再試験対象者は43名中3名であった。ほとんどの学生は標準的なレベル以上に達したと考える。</p>
---	--

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、93%の学生が、新たな知識を得ることができ、自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 就職後に医療の現場において必要とされる知識や思考を想定して授業内容を構成した。93%の学生が、課題検討力や判断力を得ることができたと肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題は無いと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価は、5項目中3項目が平均値4.0点であり、授業の説明については93%が「理解しやすいものであった」と答えていた。授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、93%の学生が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。なお他教科の課題が多いため授業外学習時間を確保することが難しいことがわかったため、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させることができるよう工夫した。毎回の授業の最後に確認テストを行い、加えて次の授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処することができた。自由記述からも、確認テストを復習することが重要ポイントの理解につながっており、授業で配布した資料を活用しながら授業内に理解できるよう努めていることが伺えた。なお授業の中で発表する機会が少なかったと感じている学生がおり、限られた授業時間内で、質疑応答の機会を増やしていくことは今後の課題である。以上のことより、双方向性の授業参加を促す工夫を検討するなどの課題はあるものの、授業の質を向上させることはできたと考える。インターネットや図書館を利用した学生が少ないことから、今後は出典の確かな正しい情報を積極的に利用した調べ学習を促していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は専門基礎科目であり、2年生で学ぶ「疾病診断治療学」につながる科目としての医学的な基礎知識を修得することを目指した。基礎的な内容であるがゆえに実際の臨床と結び付けて考えることが難しいのではないかと考え、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、毎回の授業終了時の確認テストに加えて、授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだ。成績評価および学習到達度の自己評価より、教育目標は概ね達成できたと考える。課題を課される授業が多いため授業外学習時間を十分に確保することが難しい状況においても、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでおり、9割以上の学生が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質疑応答の機会を増やすための時間を作るなど、学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策をさらに検討していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学 II	2	後期	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①前期で学んだ「疾病診断治療学 I」を基に、管理栄養士として必要な臨床医学の知識および考え方を定着させることを目標とした。チーム医療を担う一員としての医療の現場を想定して、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、医学と食物・栄養との関連についてのイメージを持ちやすくすることに努めた。特に医学および栄養学知識を持つことがいかに大切であるかを身近な問題としてとらえてもらうために、実際に起こった社会問題やニュースなどの事例を紹介し、その原因や予防・改善するための方策について提示するなど、学生の関心を引きつけやすいように工夫した。</p> <p>②授業で使用するスライド資料を印刷して配布した。</p> <p>③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。また授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。</p> <p>④改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。</p> <p>⑤学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができることも、教える側にとっても、学生の理解度に応じた授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。</p> <p>⑥毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本試験の成績の平均値は 76.3(±9.5)点であり、再試験対象者はいなかったことより、ほぼ全員が標準的なレベル以上に達したと考える。授業においては、指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において、全員が「自分なりの目標を達成した」と回答していた。新たな知識の修得において特に自己評価が高く(平均値 4.2点)、事象を理解する考え方の獲得・課題検討力や判断力の獲得・学びへの意欲においても高く自己評価しており(各4.0点)、積極的に学習に取り組み学びを深めたことが伺えた。これらのことより、双方向性に授業参加を促したり、個々の理解度に応じてサポートしたりするための方法を工夫するなどの検討課題はあるものの、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、全員が、新たな知識を得ることができ、自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、「的確な判断力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」と肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価および到達度自己評価は概ね肯定的であり、授業は理解しやすいものであったと考える学生が多い（平均値 4.3点）ことは評価できる。授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、今後はさらに質疑応答を増やすなど関心を高める機会を増やしていきたい。また授業の課題以外に自発的に学習に取り組んだ学生は31%にとどまっていたが、自由記述では、他授業の課題が多く忙しかったために時間的余裕がなかったと答えた学生が多く見受けられた。授業外課題が多いため学生の負担が過重になっている状況があることを考慮し、確認テストを授業の中で行って提出させるなど、授業時間内に知識を定着させる時間を作るようにした。ほとんどの学生が授業で配布した資料を活用しながら記録を作っており、自由記述からも授業時間内に理解しようと努めている学生が多いことがわかった。確認テストを復習することが重要ポイントの理解につながったという意見も多く、講義資料の配布や確認テストの実施が、理解力や学習意欲を高めるモチベーションとなったものと推察される。今後は、次回の授業内容を事前に提示するなどにより、授業に対する準備・関心をさらに高めることを心がけていきたい。なお図書館を利用した学生が少なかったため、積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶよう、インターネットの正しい活用方法についても指導していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は専門基礎科目であり、管理栄養士に求められる医学的知識の修得については、成績評価および学習到達度の自己評価から概ね達成できたと考える。今後は3年前期の「臨床基礎医学実習」へとつなげていき、実践的な知識の定着を図る予定である。修得すべき医学的知識は、生物学・化学など質・量ともに多岐にわたっているため、学生によっては消化不良であったと推察する。学生が理解できていない事項を早めに認識して対処するために、毎回の授業終了時の確認テストに加えて、授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだ。授業外課題が増えている中でも、約6割の学生は予習・復習に取り組んでおり、また全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質疑応答の機会を増やしたり、事例を取り上げて検討したりするための時間を作るなど、学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策をさらに検討していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動生理学	3	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>運動が人体の各種生理機能に及ぼす効果を理解し、運動が体と心の健康を生み出すために重要であることを理解する。また、運動処方的重要性とその実際を学ぶ。</p> <p>授業評価のポイントは、運動の種類、体力の種類、運動の効果を良く理解し、現実のスポーツや体力トレーニングの様々な問題を解決できること、また健康状態を考慮して予防医学的立場から運動処方を考案できるようになること、について評価する。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績の平均84 (SD22.0) 再試対象者1人、80点以上6名 (6名中) 目標レベルを達成した。</p> <p>受講動機；単位確保50%、興味関心25%、友人履修25%等々 科目の意義関心ではなく受講を決めたものが半数以上。</p> <p>達成度の自己評価；4.0 (4.0以上10項目/10) 高評価、自己目標の達成をほぼ全員表明。</p> <p>授業の質；4.0～4.3 (4.0以上5項目/5) 高評価、プレゼンと討論の能力の育成を加えたい。</p> <p>学習量；授業時に学習記録、運動記録、試合記録をタイムリーに行うので、もっと授業中の学習の工夫が必要。</p> <p>情報利用；シラバスは半数近くが参考にしている。シラバスの充実が必要。</p> <p>図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

栄養学は運動で使われるため、車の両輪の様な関係にあり、運動を学習せざるを得ない。
栄養学に詳しくなればなるほど、運動の仕組みに詳しくなる関係にある。しっかり栄養学の勉強に打ち込んでほしい。
受講動機が50%興味が高いのは栄養学科の学生として考えさせられ、興味関心の呼び起こしを考えたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

運動生理学は広く多岐にわたる学問なので、知識の積み重ねが大事である。実体験しながら学習することに尽きる。日頃の生活の中で、運動生理学的測定などの課題を行いながらデータにも続く考え方を身につけながら行ってみたい。検索した文献をもとに議論をしたい。
遠隔になったことは非常に残念で、意欲的的学生にもっと体験的内容に持っていきかけた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

意欲的学生的意欲の方向性をタイムリーに動かしたい、その様な内容が展開できる科目と考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①当該科目は必須科目であり、また、管理栄養士国家試験受験資格取得のためには必要の科目であるため、受講動機は「必須科目」に集中することは当然のことと考える</p> <p>②食品の栄養成分や嗜好性成分、機能性成分などについて修得する科目であり、成分の構造や性質は多岐に渡る。講義で使用するため要点をスライドにまとめ配布資料としても使用した。</p> <p>③毎回、授業の初めに『目的』を提示し、各講義で特にしっかりと理解してほしい点を説明した。また、授業の最後には、提示した目的に対する説明を答えてもらうという時間を設け、意識付けさせることを試みた</p> <p>④復習を定着させるため、小テストを実施した。アンケート結果からも、小テストのため授業の復習を行う学生が増加していた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①成績評価 受講者数37名のうち再試対象者は14名であり、内2名が再履修対象者となった。再試験後は94.6%（35名）が標準レベルに達し、そのうち理想的レベル（80点以上）に達したものは26%（13名）であった。成績評価から、9割以上が標準レベルに達していた。しかしながら、平均点が減少していたこと、再試験対象者が多い事、再履修者が2名いることから、「やや達成」と評価した</p> <p>②授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で平均値が4.3、的確に判断する力：4.2、学びを深めたい意欲を持つことができた：4.2、専門分野で必要となる技術を身につけることができた：4.2と高い結果を得た。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性
本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品が有する栄養成分の特性、嗜好的特性、生体調節に関する特性性など、管理栄養士・栄養士として食品に含まれる成分の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。

② DPからみた内容の妥当性
成績評価から94.6%が標準レベルに達しており（内 理想的レベル：26%）、基礎的な教養が身につけていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は平均値4.4、「説明は理解しやすいものであった」は平均値4.2であり、授業に配布したプリントや重視する点の提示によって、理解しなければならない箇所などが明確になり、授業へ取り組みやすかったのではないかと考えられる。小テストの取り組みにおいて復習を取り組む学生は増加していたが、それでも「0回」の学生が7名いることがわかった。引き続き、復習の時間を取り理解を定着させることを促していきたい。また、学生の発言機会が授業内で作れていないので、そのような機会が持てるように授業改善を行いたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品成分」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。94.6%が標準的なレベルに達しており、概ね達成できたと考える。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で平均値4.3、的確に判断する力：4.2、学びを深めたい意欲を持つことができた：4.2と高い結果を得たことから、達成度も妥当と考える。食品学Ⅰは次に控えている食品学Ⅱを学んでいくうえで重要な教科であるため、学びへの意欲を持ち続けられるようにその都度、授業を見直しながら進めていきたい。また、試験結果の平均点の減少など学力の低下も感じられるため、その点でのサポートが必要であると考えます。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は管理栄養士国家試験受験資格必修科目であり、卒業必修科目です。そこで、「受講動機」として「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」38.5%と高い数値を示しています。一方で、「関心のある内容である」が10.3%と比較的低い数値を示しています。「関心を持ってもらうこと」を特に重要と考えており、教科書以外で最近の話題や最新の知識を授業内容に反映させるために、オリジナルのペーパー資料を作成して授業に取り入れてきました。到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」では、約77%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と答え、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」では、約79%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と答え、「自分が学ぼうとする専門分野において、学びを深めたいと意欲をもつことができた」では、約69%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と答えていました。従って、「関心を持ってもらうこと」の目標は達成はできたのではないかと考えています。しかし、次年度は、さらに関心を持ってもらいかつ内容理解が容易になるように、パワーポイントを用いた視覚的教材も準備していきたいと考えています。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>評価結果で、受講学生の90%以上が良以上の成績を修めており、「全体を通して」をやや達成されたと判断しました。「知識理解 (DP1)」については、学習到達度の自己評価において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の質問に約79%の学生が「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と答えていたので、やや達成されたと判断しました。同様に、「思考判断 (DP2)」については、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確な判断する力を得ることができた」の質問に各々70%以上の学生が「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と答えていたので、やや達成されたと判断しました。同様に、「意欲関心 (DP3)」については、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」の質問に、69%以上の学生が「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と答えていたので、やや達成されたと判断しました。学習量の評価では、約40～50%の学生が予習・復習を一度もしていなかったことに反省しております。小テスト等があるため予習・復習を促していましたが、次年度は、予習・復習のやり方などもより丁寧に説明していきたいと思ひます。また、自主的学修のためにも、教員への質問に加えてインターネットや図書館の利用についても勧めたいと思ひます。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目で、卒業必修科目です。従って、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然のことだと思います。また、本科目は、食品加工および機能性の詳細を教授する科目であるため、食品学Ⅰ、食品学Ⅱの次に配置されています。DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性には、妥当であると考えています。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、特に学生の意見等がありませんでした。しかし、学習量の評価について、「勉強の仕方がわからない」や「勉強時間の確保が難しい」といった意見がありました。そこで、毎回の授業終了時に復習内容についての確認、また、勉強時間の確保を促すことなどを進めていきたいと思えます。また、学生の関心・意欲がより高まるように、視覚を使った教材（パワーポイント）の改善も行っていきたいと思えます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、管理栄養士受験資格必修科目、卒業必修科目に加えて食品学Ⅰ、食品学Ⅱの総括的な科目であると考えています。学習到達度の学生の自己評価から判断すると、目標のDPを達成できたのではないかと考えています。しかし、予習・復習時間、関心・意欲の向上など解決していくべき課題があります。これらを改善できるように、今後とも授業改善に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目であり、卒業必修科目です。「あらかじめ授業の計画を立てた」または「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答した学生は約20%程度で(回答数21名)、授業計画を立てずに講義に参加していることがわかりました。</p> <p>「受講動機」は、「必修科目である」は100%、「資格に必要である」は50%、「関心のある内容である」は12.5%でした。授業の実施にあたり大切にしていることは、「関心をもってもらうこと」です。そのため、食品衛生を身近なものに感じてもらうために、授業中に食品衛生に関する最新のニュースであったり、盲点の話題提供などの話を積極的に行いました。また、教科書に記載していない最新の食品衛生に関する知識等についても、プリント資料で提供しました。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>「学習到達度の自己評価」で、コミュニケーション力、職業倫理を除く本科目に関する全ての質問について、約65%以上の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していること、「学習量の評価」について、約20～30%の学生が6回の講義に関して予習・復習の勉強時間を確保したこと、自発的学習については、「授業以外に学習に取り組んだ」と回答していること、自由記述の意見については、「時事ニュースを見て関心を持つようにした」とか「気になったことを調べたりした」と回答している結果から、全体を通して概ねやや達成されたと判断しました。知識理解(DP1)については、学習到達度で「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」について、約70%の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。思考判断(DP2)については、学習到達度で「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」について、各々約70%の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。意欲関心(DP3)については、学習到達度で「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができる」について、約67%の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しているため、やや達成されたと判断しました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目で、卒業必修科目です。従って、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然のことだと思います。「学習到達度の自己評価」についても、概ねやや達成された結果が出ています。また、本科目は、食品衛生に加えて微生物を教授する科目であるため、加工食品機能論と同様に、食品学Ⅰ、食品学Ⅱの次に配置されているのは妥当であると考えます。従って、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、妥当であると考えています。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、自由記述で、教科書以外の事を話過ぎて授業の進みが遅くなる傾向にあったとの指摘がありました。そこは反省しております。しかし、食品衛生学とは身近な学問であることを知っていただき関心を持ってもらいたいので、食品衛生に関わるニュース等の話題は、授業の進みを考慮しながら考えて実施していきたいと考えています。毎回の授業終了時に復習内容についての確認、また、勉強時間の確保を促すこと、さらに、学生の関心・意欲がより高まるように、視覚を使った教材（パワーポイント）の導入についても検討していきたいと考えています。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

本科目は、管理栄養士受験資格必修科目、卒業必修科目です。学習到達度の学生の自己評価から判断すると、目標のDPを達成できたのではないかと考えています。しかし、予習・復習時間のさらなる確保、関心・意欲の向上など解決していくべき課題があります。これらを改善できるように、今後とも授業改善に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。また適宜、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に適宜、難易度の高い分野や試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。本演習は特に後半部分で食品学IIの講義と重複する部分が多くなるが、重複部分を選りながら、かつ重要な部分は本演習でも取り扱うことにより、受講者の幅広い知識の修得と理解度を深める配慮を行った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講者は29名で、休学などで1名の離脱者があったが、25名(86%)がA評価であった。またB評価も2名(7%)であった。2019年度はA評価の割合が82%で、2020年度が87%、2021年度が85%であったことから、2022年度における教育の質は引き続き高いものになったと考えている。またDPの平均値は3.5～4.3であった。3.5は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項であり、座学と演習方式の内容であることからどうしても低くなりがちではあるが(昨年度は3.2)、次年度に向けて改善をしていきたい。また学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。本演習にまで学習時間が確保できないことが考えられるが、次年度以降は事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、全ての回答者が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が4.3であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価については平均値が3.7～4.3であった。特に低かった3.2は「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目であった。次年度は、この点については留意したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「担当教員への自由記入欄」では全て好意的な意見であったことから、教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。学習量の評価では関心をもったことについて深く調べた受講者もいたが、「他の科目が忙しい」と回答した学生が目立ったことから、次年度は受講者に対して効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる流通、マーケティングさらには食料消費についてなど社会状況に密接した科目である。その為、現在の状況を反映させながら、授業を行うことを心がけた</p> <p>②学生の受講動機は「資格取得に必要である」68.8%となっており、資格試験必修教科であることから予想に沿った結果であった</p> <p>③マーケティングや流通に関する内容は、他教科で重複することがないため、当該科目で重要な点を把握できるように、また資格試験のための学習時に役立つことにも重点を置いた</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①成績評価</p> <p>最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象者は1名と、ほぼすべての受講者が標準レベルに達していた。そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は65.6%（21名）であった。</p> <p>②授業アンケート結果</p> <p>「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均値：4.3、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値：4.2、「的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.1を示しており、授業アンケート結果からも達成度は妥当であると考え</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性
本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する流通、マーケティングの取り組み、さらには食糧消費の実態について学ぶ科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。

② DPからみた内容の妥当性
成績評価から受講者の1名を除いて標準レベルに達しており、理想的レベルに達した人数も6割を超えていた。本教科に関する基礎的な知識が身につけていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業アンケート評価
「テスト、レポート、提出物などの判断基準」の平均値4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題」の平均点：4.4、「説明は理解しやすい物であった」の平均値：4.3と、いずれの項目においても概ね順調に授業を進められていたと考えている。
一方、授業のスピードが遅く感じたとのコメントがあるので、資格試験問題を随所に提示しながら、授業スピードを改善していくこととする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

受講者全員が標準レベル達しており、そのうち理想的レベルに達した者（80点以上）は65.6%（21名）であったことから、学生の目標達成に関しては達成できたと評価できる。さらに、「達成度自己評価」「授業の質」のアンケートにおいて、概ね4.4、4.3の評価を得られていることから、授業の質に関しても妥当であると考え。資格試験は3年生後期の時期であり、履修後から資格試験の受験までに期間が空くため、資格試験合格のため早めの取り組みを促していきたい。
次年度においては、授業スピードの改善やフードスペシャリスト関連科目の復習も兼ね、様々な演習問題などを活用する予定である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学実習	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①正常な生命活動の仕組みについての理解を深めるため、解剖生理学の講義の復習を促して生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせて可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。</p> <p>②実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価にて「コミュニケーション力や表現を高めることができた」について「少しそうでないと思う」以下の回答が10%あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が90%以上を占めている。</p> <p>加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。</p> <p>図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。</p> <p>以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわったことがうかがわれる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、必修科目である。実習で行った内容は解剖生理学の講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においてすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が90%以上を占めているので、概ね学生が肯定的な判断を下しており問題はなかったと判断できる。座学の解剖生理学が前期で終わった段階でこの実習を行っているが、前期の座学の復習という形で知識の定着ができたと考えている。</p> <p>図書館にて本で調べることがほとんどできていないことについては、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているため、大きな問題はないと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考えられる。</p> <p>この科目は①人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、②泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、③実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～③を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。</p> <p>今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品学Ⅰで修得した知識を、実験を通して再確認ならびに定着させることに重点を置いた。実験操作の基礎的方法を再確認する実験項目を実施後に、食品成分に関する実験に取り組んだ。これによって知識だけでなく実験に必要な基本的操作方法的定着に繋がるものと考えている。また、一連の実験を通して、科学的な考え方を意識して持ちながら実験に取り組むことを学生へ周知した。</p> <p>②学生の受講動機は「資格取得に必要である」で97.2%を占めた。管理栄養士、栄養士の免許取得には欠かすことのできない科目でありこれらの回答率は妥当なものである。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①成績評価</p> <p>受講者37名のうち再試対象者は2名であったが、1名の再試験受験者は合格し、最終的な平均値は75点であった。36名が標準レベルに達し、そのうち理想的なレベルに達した者（80点以上）は16名（43.2%）であった。</p> <p>②アンケート評価</p> <p>平均値は、「知識の修得：4.2」「判断力：4.1」「意欲：4.2」であった。事前事後学習の回数では、「0回」と回答する学生がいるものの、「4、5回」「6回」と回答をしている学生も合計で22名おり、レポート課題が復習に繋がっていると考えられる。また、実験は班で進めていくため、コミュニケーションを高めることの評価においても一定の評価が得られていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① DP/CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性
本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であるとする。

② DPからみた内容の妥当性
成績評価から、36名/37名中が標準レベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。また、4～5名のグループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養も身につくことから、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の進め方
授業の実施にあたって、実験項目ごとに反応の仕組みについて講義を行い、操作方法については器具をつかったのデモンストレーションなども取り入れて、実験手順を学生自身で整理して取り組めるよう心掛けた。また、授業を進めて行く上で、濃度計算を苦手としている学生が多かったため、練習問題を作成し解説する授業も取り入れた。14回目の実験では、教科書から操作手順を把握して学生自ら実験を進め、グループごとに教員に対して結果をもとにした説明を行うということを取り入れた。また、今年度から、各班に実験のテーマのいずれかを割り当て、2～3分程度の結果発表を行い、発表する機会を取り入れた。

②授業の質評価
アンケートにおける授業の質の項目結果では、評価基準に関して：平均値4.3、学習や課題の範囲：平均値4.3、説明の理解：平均値4.1、発表の機会が設けられている：平均値4.2、学生の質問を受け、それに答える機会：平均値4.2であった。このことより、概ね学生が満足できる授業を行っていたと考える。発表の機会を設けていたが、一人の学生が考えた内容を皆で発言している様子が見られた。次年度は、その点を改善できるような設定にしたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今年度は成績評価ならびに学生のアンケート評価から、概ね目標は達成されたと考えている。今年度も継続して取り入れていたレポートに対する解説や苦手な計算に対する講義は、学生の理解も得られているようであった。今年度から新たに実施した各班における発表では、要点はまとめて発表できていたが、発表する際の学生の態度や、特定の学生の考え（レポート）を発表するなどの様子が見受けられたので、その点は次年度に向けての改善点であるとする。しかしながら、1年生の時期から発表する機会を持てたことは良い機会であると考えられるため今後も実施する予定である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	1	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは学生自身が調理操作を行い、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため学生が自ら、多種のメニューを作れるよう師範の時間を短縮し、講義内容はテキストでの説明とポイントに絞り、自ら考え作ることができるように促した。</p> <p>②調理学実習の応用ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという科学的根拠に基づいた理解ができていない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。</p> <p>③1年前期との違いは、担当した献立のみを作成するのではなく、作業工程全体の流れを把握し、全部の献立が作れるよう指示・指導に努めた。</p> <p>④事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めにこれを提出させた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績平均値は70.6±8.5点と標準レベルであった。3名が再試となった。この3名に関しては、学力や理解力の低下のほか、感染のための欠席や意欲の喪失などが見受けられた。</p> <p>この実習は実習後のレポート得点を加味するため、栄養価計算やレポートの内容により評価が左右される。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは37名中5名であった。到達度自己評価の平均値は4.2～4.4点、中央値は5.0点と高かった。項目ごとに平均値と中央値を見ると「自分なりの目標に達した」が4.2、4.5点、「知識を得た」が4.4、5.0点、「課題を検討する力を得た」が4.3、5.0点、「的確に判断する力を得た」は4.4、5.0点、「学びを深める意欲」4.4、5.0点、「技術を身につけた」が4.4、5.0点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.4、5.0点との評価であった。以上のことより、1年前期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術が向上し、自信となり、今後の学習意欲につながったと考えられた。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年前期の基礎調理学実習と1年後期の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価の平均値は4.2~4.4点、中央値は4.0~5.0点であった。学習すべき範囲は明らかで(4.4点)、説明は理解しやすかった(4.4点)の結果より、学習のポイントを的確に理解し、修得できたと考えられる。
予習及び復習に関しては、毎週、実習を行うため、ある程度の予習が必要であり、また、実習後には、レポートや栄養価計算の課題の提出が必須であったことから、予習及び復習の時間が確保されたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。
①初回は1年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②毎週実習後の感想をレポートに記載してもらい、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。
例年、同じ内容や問題を出題しているにも関わらず、学力や理解力の低下が伺われる。学生のレベルに応じた個別の対応により、技術指導や学習指導を心がけ、学習意欲を高めることが重要であると感じられた。
1年次からの基礎専門科目であるため、学生にとって調理理論や調理技術の習得はプレッシャーである。そのうえ、栄養価計算やそれに伴う種々の計算を正しく理解し導き出すことも容易ではない。定期試験の後、できていない学生をわかるまで指導することが今後の課題といえる。1人1人のレベルに見合った指導を行い、留年や退学を招かないよう、未然に防止するよう努めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機に対する回答で、回答した34名の学生全員が「必修科目である」ことを理解しているが、「資格取得に必要である」ことを理解している学生は半分以下の41.2%、「関心のある内容である」と答えた学生はわずか1人と少なかった。栄養学の基礎的知識が、管理栄養士資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士業務の実践の場でも重要な基礎的事項であることを毎年、強調しているが、なかなか浸透しない。栄養学科を志望する学生には化学・生物などの理系科目を比較的苦手とする学生が多いことから、そのことが関心の低さ影響しているのかもしれない。関心を高めるためにも、基礎栄養学の化学的な知識と考え方が、管理栄養士の実際の業務のなかでどのように活用されているか、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②今年度は新型コロナ感染がある程度落ち着いたので、すべての講義を対面で実施した。</p> <p>③授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容となるように改善している。</p> <p>④授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。また、授業の終わりに、その日のテーマに関する練習問題を学生に口頭で答えさせるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な本試験の成績の平均値は、78.8点(±11.2)であった。本試験では、37名中35名が合格し、2名が不合格であった。成績の分布は、90点以上が5名(13.5%)、80点～89点が14名(37.8%)、70点～79点が11名(29.7%)、60点～69点が5名(13.5%)、60点未満が2名(5.4%)であった。不合格2名のうち、1名は再試験で合格し、残りの1名は再試験の科目制限（4科目以内）のため再試験を受けることができなかった。今年度(2022年度)の試験は、対面で資料持ち込み不可で実施したが、試験成績(平均78.8点)は、2021年度(平均82.2点)および2020年度(平均87.3点)の成績に比べるとかなり低下していた。2021及び2020年度の試験はオンラインで実施したため、結果的に「資料・教科書持ち込み可の試験」になったことが、好成績の原因であると思われる。それ以前の対面・持ち込み不可の試験の成績(平均72点～76点)と比べると今年度の成績は、ほぼ同じレベルかやや好成績であった。2年前より授業の終わりになるべく多くの学生にその日に学習した範囲の練習問題を口頭で答えさせるようにしているが、このことが成績向上に影響しているかもしれない。授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、この科目のDP1(知識・理解)及びDP2(思考・判断)に相当する項目(1)～(5)については、今年度の評価は3.6～3.8で、オンライン試験で成績の良かった2021年度(3.7～4.1)および2020年度(3.8～4.2)よりは低い評価であったが、対面試験で成績がほぼ同じであった2019年度(3.4～3.8)、2018年度(3.2～3.4)に比べると、ほぼ同じかやや高い評価であった。以上より、まだ改善すべき点は多いが、一応の教育目標を達成できていると考えている。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えているが、「3. 授業準備について」でも述べたように、資格取得に必要であると答えた学生や、この科目に関心があると答えた学生が少ない点は、今後の課題である。ただ、期末試験の成績において良好な成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えている。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)を評価する期末試験の成績は、おおむね良好であることから、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」の今年度(2022年度)の評価(2.9~3.7)は、オンラインで授業を実施した2021年度(3.2~4.0)、2020年度(3.6~4.3)に比べるとすべての項目で低評価であったが、対面で実施した2019年度(3.0~3.6)に比べるとほぼ同じレベルであった。基礎栄養学の講義はパワーポイントのスライドを見ながらの授業になるが、科目の性質上、比較的込み入った図が多いため、広い教室のスクリーンで見ると各自がモニターで見ることが分かりやすいのかもしれない。教室では「密」を避けるために、間隔を取って席についてもらったので、後ろの方はスライドが見にくかった可能性もある。今回の「授業の質評価」の中では、項目(1)「明確な評価基準」及び項目(2)「学習の範囲・課題」が比較的高い評価(共に3.7)であった。スライドは毎年、分かりやすくなるように改訂しているが、スライドが分かりにくいという自由記述もあったので、更に改善していきたい。</p> <p>例年、得点が低い項目(4)「授業中の学生の参加・発表」については、今年度も評価(2.9)が低かった。この項目についてもオンラインのほうが対面より評価が高い傾向があった。また、例年、「早口で分かりにくい」とよく指摘されるので、なるべくゆっくりと話すことを心掛けたつもりであったが、授業アンケートの自由記述では多くの学生より同様の指摘があった。厚労省から提示されている基礎栄養学の国試出題基準(ガイドライン)や栄養改善学会がまとめた栄養学のコア・カリキュラムの内容をすべてカバーするには、早口で講義しても時間的にはかなり厳しいという現実があるが、講義内容をコンパクトにまとめて、出来るだけ明確にゆっくり講義するよう心掛けたい。以上、昨年に比べると評価が下がってしまったが、学生の成績は例年と同様良好であったことから、授業の目標はおおむね達成できたのではないと思う。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎栄養学の基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践の場に活用できるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学概説	1	後期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養学概説は、2年次からの専門基礎および専門科目を学ぶ前の導入教育の意味も含む卒業および管理栄養士受験資格必修の科目である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。今年度は各担当教員が、講義内容の見直しも図りつつ、この科目を2年次から学ぶ専門基礎および専門科目へ繋ぐことが出来るように、学生の学修レベルにも配慮しながら、学生に関心をもって講義に臨んでもらうことが出来るようにした。学生からもこの科目を学んだことで「知識を確認、修正、新たに得ることが出来た」と多くの学生たち(97%)が評価しており、今後に修得していく科目へ学びを繋ぐことへ貢献できたものと考えている。</p> <p>②栄養学概説は、「日本食品標準成分表」に関する講義と、「日本人の食事摂取基準」に関する講義の二本立ての科目である。2人の教員によるオムニバス講義であるが、2教員とも資料を配付し、その資料には、ポイントが理解できるようにする、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。さらに教員は食品成分表や食事摂取基準などの講習会に参加し、最新の情報を学生たちに提供できるように努力している。食品成分表の担当教員は実務家の経験がある教員でもあるため、基本の講義は勿論のこと、より実務に即した講義を展開している。「食事摂取基準」の講義では、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。次年度以降も学生たちの学修レベルの把握をしながら講義の進行をしていく必要がある。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は39名の受講生中、A(秀)が6名(15.4%)で、B(優)が25.6%であり、C(良)が23.1%、D(可)が17.9%であった。不可の学生が17.9%と高かった。受講生の約82%が標準的レベルに至っており、講義内容や試験方法はこのままで実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」との回答が多く、DP3に関してはこれらの回答を含め評価した。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「やや達成された」と回答する。学習量の評価では、約59%の学生が予習、約40%が復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学習時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テストを実施し、この返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、自主的学修のためにも、インターネットだけや図書館の利用に関して、学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の中の応用栄養学の項目の1つに位置している。また、2年次からの専門基礎および専門科目への導入科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、約59%の学生が予習、約40%が復習を一度もしていないと回答した。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は57%であった。講義初回時にシラバスの説明をしており、このシラバスを参考にしながら、講義を受講できた学生は多かったと思われる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、2年次の専門基礎および専門科目への導入科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものとする。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。授業評価では、担当教員に対し、講義がわかりやすかったと良い評価を得ることも出来た。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%は当然の回答であり、「資格取得に必要なである」が54.3%、「関心のある内容である」が14.3%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年前期）の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。2022年度後期は対面講義での実施であった。毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説するようにした。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は55名の受講生中、A(秀)が14.5%、B(優)が22%、C(良)20%、D(可)が29%で一番多かった、不可の学生は13%であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達してはいるが、理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達している学生は14.5%と低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も22%のため、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはいかがであった。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、43%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。対面授業が可能になったため、今後は特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、43%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は63%と高かった。しかし45%は、シラバスを活用し授業の計画を立てている。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だと思いが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の25%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年前期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>人間は動くもの（動物）の一員である。摂取された栄養素は我々が身体を使うとき、体内で様々な代謝され、その活動を物質的に支える。しかしながら、今日のように日常生活様式が機械化され、情報化されて便利になると、日常の身体活動が低下し、本来そのために使われるべき栄養素と遺伝的に備わっている代謝機能が十分に活用されず、体内での栄養素の代謝が不活発となる。一方、「飽食時代」と言われるように、「食」に関しては、好きなものを、いつでも、いくらでも食べることができる。このような身体活動や食における生活習慣の変容が、今日の生活習慣病の増加をもたらす大きな要因となっている。</p> <p>本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかに関与するかを学ぶ。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均86 (SD10.2) 再試対象者1人、80点以上47名 (50名中) 目標達成、理想的レベル達成					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。	受講動機；必修科目85%、資格のため70%、単位数の確保25%、科目の意義を考える必要性					
<授業評価の指標>	達成度の自己評価；3.0～4.0 (4.0以上6項目/10) 高評価、自己目標の達成感を情勢する必要					
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など	授業の質；3.5～4.0 (4.0以上/5項目) 高評価、プレゼン能力の育成					
	学習量；授業時に学習記録、運動記録、試合記録をタイムリーに行うので、もっと授業中の学習の工夫が必要					
	情報利用；シラバスは半数近くが参考にしている。シラバスの充実が必要。					
	図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講では、身体活動(運動)時や環境変化・ストレスに対応して、体内で起きている栄養代謝の概要とそのメカニズムを学び、身体活動、環境変化、ストレスに対して、栄養の面から適切に対応することが、疾病の予防や健康の維持・増進にいかに関与しているかを学ぶ。

受講動機は85%が必須科目という事で受講している。そのほかに資格に必要であるが70%である。

残念なのは関心があるが10%と低く、栄養学科の学生が応用栄養の必要性を理解できていないと感じる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

3人の教員が進めている。それぞれの評価基準があるが、平均的に80%の理解度を目標にそれぞれの教員で、授業改善をおこなっている。

授業の質の評価は3.4~3.7であった。受講生の半数は予習復習を行なっている。

情報の利用は半数以上が利用している。図書館の利用は大多数であった。

学習状態は順調と考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学習は意欲があることが、成就するポイントである。基礎力を応用するこの科目に興味を持つように動機づけに力を入れたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本3年生における受講動機は、「必修科目である」が98.0%であり、「関心のある内容である」は16.4%と少ない状況であった。そこで、理論の一方的な説明にならないよう留意し、関連する管理栄養士国家試験内容等の紹介等も織り交ぜることで、関心を引きつけるように配慮した。</p> <p>②授業の最初に、将来の希望職種に関する調査を行い、管理栄養士の資格を生かした職を希望する者が多いことを確認した。希望は、保育園や小学校、病院、行政等、多岐に渡っていたので、幅広い対象における知識が深まるよう配慮した。</p> <p>③授業の始めに毎回、確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。また、確認テストの解説を丁寧に行うことで、前回の学習内容の確実な定着を図り、当日の講義内容の理解につながるよう講義と講義のつなぎに重点をおいた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終試験の得点の平均値 (±標準偏差) は78.0 (±12.2) 点であり、90点以上が11.5%、80点以上90点未満が42.3%、70点以上80点未満が30.8%で、合計でおおよそ85%が70点以上に達した。平常点を加味した最終成績の内訳 (履修放棄者を除く) は、Aは7人(13.2%)、Bは18人(34.0%)、Cは19人(35.8%)、Dは8人(15.1%)、Eは1人(1.9%)、再試未受験者)であった。</p> <p>項目別に見た平均値 (±標準偏差) は、知識理解を問う問題 (60点満点) が54.2 (±9.2) 点、記述問題 (30点満点) が18.0 (±4.3) 点、思考判断を問う問題 (10点満点) は5.9 (±3.4) 点であった。記述力や思考判断力に課題はみられるが、知識理解の得点率は非常に高く、目標は達成されたと判断した。意欲関心や態度については、講義への出席率や毎回の小テストの成果、指名質問に対する回答内容等から判断して、おおよそ目標は達成されたと判断した。本年度は対面の講義形式であったため、発表や全体の前で発言する機会を設けることもできた。</p> <p>学生による到達度自己評価では、「自分なりの目標を達した」、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「的確に判断する力を得ることができた」等の項目において約98%が肯定的回答をしていた。</p>					
*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門教育科目」であり、必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもあることから、様々な理論の理解が求められると同時に、応用的な思考力・判断力を身に着けることも重要である。行動科学に関する理論や栄養教育マネジメントの理解が進むように配布資料内容を吟味した。学生は、小テスト及び本試験において一定以上の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
自己評価において、遠隔講義であった昨年度は、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目に関する評価が比較的低かったが、今年度は約94%が肯定的回答をしていた。このことから内容的妥当性は向上したと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

以前の関連科目の講義における学生評価の中で、「小テストの回答を詳細に示してほしい」との意見がみられたため、本講義においては小テストの解説をより丁寧に行った。1週間前の講義内容の繰り返しとなるため重複を感じる学生が多くなかっただけで、多くの学生が小テストを好意的にとらえていたことがアンケート内容から伺えた。この『栄養教育論Ⅰ』で教示した理論を『栄養教育論Ⅱ』の実践的内容につなげていきたい。
今回、学生の意見の中に、急な補講に関する要望がみられた。感染症による予知できない休講によるものではあったが、もう少し学生のフォローに気を配るよう努めたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

管理栄養士として社会で活躍するために、栄養教育に関する様々な理論や教育の計画・実施・評価・改善の一連の流れを学ぶという観点から、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、一部に授業外の学習量が少なかった学生がいたことは課題である。その理由の一つとして「時間がとれなかった」という回答が複数みられたことから、アルバイトやサークル等による生活時間に関する助言を行ったり、学科内で課題量等を調整したりする必要があると感じた。講義で伝えたことはよく理解できていたが、応用力の定着にまで至らなかったことは考慮すべき点である。
講義であることを意識して知識の伝達に重点をおいたが、今年度からの対面講義であったため、学生自身に発言させる機会を設けることができた。これによってより積極的な意識につながり、知識の定着が進んだと考えられるので、次年度も続けていきたいと考えている。
以上から、今後は、応用力の定着につながるような学習に導くこと、学生自身が発言をできる取組みを続けることに留意していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	後期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本3年生における受講動機は、「必修科目である」が81.4%、「資格取得に必要である」が59.3%であり、「関心のある内容である」は16.9%と少なかった。本科目は、これまでに学んだ理論を実践に活用するための講義・演習であるため、グループワークを多く取り入れ、関心を引きつけるように配慮した。</p> <p>②各講義の始めに、「キーワードチャレンジ」として、栄養教育論に関する重要ワードを確認する時間を設けた。4年生に向けての国家試験対策も意識しつつ、理論に基づいた演習となるよう配慮した。</p> <p>③グループ内で討議する時間を多く設定し、コミュニケーション能力の向上を目指した。また、各グループごとに討議した内容を全体の前で発表する機会を多く設けることで、社会人となった際の実践的スキルを身に付けさせることに重点をおいた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終試験は行わず、講義内におけるグループ討議中の発言や全体での発表、提出物等の平常点の累積により評価を行った。最終成績の内訳（履修放棄者を除く）は、A（90点以上）は8人(12.1%)、B（80点以上90点未満）は24人(36.4%)、C（70点以上80点未満）は22人(33.3%)、D（60点以上70点未満）は12人(18.2%)、E（60点未満）は0人(0.0%)であった。8割以上が70点を超える得点を獲得していたことから、目標は達成されたと判断した。</p> <p>意欲関心や態度については、新たな知識を習得する講義内容ではなかったことも影響していると考えられるが、講義への欠席率が他の講義や実習に比べてやや高かったことから「達成された」ではなく、「やや達成された」とした。但し、講義や演習中の積極的な態度は回を追うごとに増し、発表内容も一定の成果がみられたことから、全体としては目標は「達成された」と判断した。</p> <p>学生による到達度自己評価では、「自分なりの目標を達した」、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「的確に判断する力を得ることができた」等の項目において約95%が肯定的回答をしていた。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は「専門教育科目」で、選択科目ではあるが、管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには必修の科目である。管理栄養士国家試験にもカウンセリングに関する問題は出題されるため、様々な理論や技法の理解が求められると同時に、社会に出た時に役立つ実践的なスキルや応用的な思考力・判断力を育成することにも主眼を置く必要がある。そのため、栄養教育に関するキーワードの確認を毎回実施するとともに、グループディスカッションを多くとり入れ、理論と実践が結びつきやすいように配慮した。学生は、全体発表及び提出物において一定以上の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>自己評価において、本科目で最も主眼を置いている「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目で、約97%が肯定的回答をしていたことから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>栄養教育に関するキーワードの確認を実施する際、小テストとはせずに『キーワードチャレンジ』として各自のペースで自主的に学習することを促したが、取組の度合いは個人差が非常に大きく、回を追うごとにその差は拡大していった印象であった。次年度は途中で一度確認テストを行う等、学生が意欲をもって取組み、個人差が広がらないような工夫をしていきたい。</p> <p>グループディスカッションでは、一部に消極的な学生もみられ、そのような学生がうまくディスカッションの中で生きることができるように、グルーピングやフォローの仕方を工夫していかなければならない。</p> <p>学生からの授業評価の意見の中に、「一番コミュニケーションが深められる講義だと感じた」というものがあり、一定の効果が実感できた。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>あらゆる人に心から寄り添える管理栄養士となるために、実践的なカウンセリングスキルを習得するという観点から、ディスカッションスキルの習得やカウンセリング計画の理解については概ね達成できた。回を追うごとに、ファシリテーター役の学生がディスカッションをうまく進行できるようになり、発表者もポイントを押さえた発言ができるようになっていた。但し、やはりその取組み度合いには個人差がみられたことから、次年度は全員が積極的に参加できるよう、ディスカッション中の声かけを工夫したい。</p> <p>学生の授業評価においては、「授業の課題以外の学習に取り組んでいない」と回答した学生はやはり多く、その理由としては「時間がなかった」、「他の講義の課題で手一杯だった」、「余裕がなかった」等があげられていた。本学科では、3年生の後期にはより専門的な講義が増え、臨地実習関連の課題にも追われる実態がある。本科目「栄養カウンセリング論」の自己学習については、臨地実習関連の課題の中にも通ずるものがあり、学生が他の科目の課題への取組みの中でも、カウンセリング技法や教育計画手法を意識できるような働きかけが必要であると考えている。</p> <p>以上から、今後は、全員が積極的にディスカッションに参加できる声かけを工夫すること、学生が他の科目との関連を意識できるような働きかけを行うことに留意していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	花田 浩和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	選択	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると「必須科目である」93.6%であり、「関心がある内容である」14.9%であった。</p> <p>疾患の特性と病態を理解しておくことが重要な科目であり、疾患ごとの学習課題と栄養学的問題を把握するために栄養評価の基準を理解し、栄養管理の目標や栄養管理の方法などを理解する必要がある。</p> <p>疾患や病態の説明では図や表を使用し視覚的に理解しやすいように配慮し、臨床栄養管理の説明ではテキストの基準や数値を用い、配布資料により補足をを行った。</p> <p>臨床現場における栄養管理でイメージしにくい部分は臨床現場における経験などを紹介し、臨床栄養管理の理解が深まるように配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「専門応用科目」であり、臨床現場における管理栄養士業務の基本となる教科であり、DC、CP、カリキュラムマップにおける位置づけは妥当である。本科目の理解には、これまで学んできた「専門基礎科目」と「専門応用科目」の十分な知識と理解が重要であり、特に、疾患の特性と病態を十分に理解して講義に臨む必要がある。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義では、疾患の特性や病態の復習し、臨床栄養管理を理解できるように構成したが、疾患と病態の理解が不足していた可能性があり、栄養治療学Ⅱの十分な理解に繋がらなかったと推測する。講義の予習として疾患と病態の理解を徹底するように指導するべきであった。

講義では疾患治療や病態説明を簡素化して疾患ごとの臨床栄養管理を説明することにより、情報を順序だてて分かりやすく説明すべきであった。実際の臨床現場の栄養管理を紹介し、臨床現場における栄養管理を身近に感じることで関心が高まるように講義を行ったが、情報量の過重に繋がり重要度の高い臨床栄養学の知識を習得させることができなかった。臨床現場の経験などを紹介することは知識の混乱を招く可能性を考慮し慎重に行うべきであった。

印刷により配布資料が画質が低下し見にくくなっていた。画質の良いスライドを使用すべきであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

栄養学の専門応用科目として、疾患および病態を理解しておくことが重要であり、基礎栄養学・応用栄養学の知識を基礎として臨床栄養管理ができる能力を習得することを目標に講義を行った。

疾患および病態の説明を行い、栄養管理の目標を明確にした上で、テキストと学会ガイドラインの治療目標を示して臨床における栄養管理について説明を行ったが、習得する情報量が多くなったことにより、栄養管理の重要点が不明朗になった可能性がある。

臨床栄養の知識を応用する技能表現を習得させるための説明と指導が十分に行うべきであった。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	花田 浩和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、「必須科目である」90.9%、「関心がある内容である」12.1%である。</p> <p>臨床現場における管理栄養士の役割を理解し、管理栄養士の役割と業務を学ぶことを目的とした科目であり、臨地実習Ⅱ（病院実習）の事前学習として実習の心構えと実際の医療現場の現状などを理解することも学習の目的とする。</p> <p>テキスト「病院等栄養管理の基本と実際」（福岡県栄養士会編）を使用し、医療機関で実施されている診療報酬制度を理解するように努めた。また、医療機関における栄養管理体制などについては、自らの経験も紹介し、他職種との連携やチーム医療における管理栄養士など役割などについて解説を行った。</p> <p>外部講師として、急性期病院の管理栄養士2名を招聘し臨床現場における栄養管理体制についてご紹介いただいた。また、弁護士1名を招聘し医療法規の実際についてご講義を頂戴した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>定期試験の平均点65.2点であり、受験者数65名に対して14名が合格点に達することができなかった。</p> <p>「授業の質評価」（平均値3.1～3.1）の評価が低く、「到達度自己評価」（平均値3.6～3.9）が低いことから、十分な知識と学習を提供できていない可能性があり、学習目標を達成できなかったという評価に繋がった可能性がある。</p> <p>「情報利用」「図書館利用」の割合が低いことから、予習および復習に必要な情報提供が不足していた。本科目では、医療機関や診療報酬について十分な理解が必要であることから、学習課題を明確に設定し予習および復習を徹底させる必要があった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「専門基礎科目」「専門応用科目」を理解し、臨地実習Ⅱ（病院実習）に繋げるための科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当である。

医療機関の現状や臨床現場における管理栄養士の業務を2年生までにイメージできていることが理想的であり、臨床栄養活動論の円滑な導入と理解に繋がると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

説明が分かりにくいという意見が多かったことから、情報を整理し、明確化と簡素化を徹底する必要がある。

「情報利用」「図書館利用」を増やすために、事前学習として臨床栄養管理の目的や臨床現場における栄養部門の課題などを調べるようにすること、また、臨地実習Ⅱに繋げるために診療報酬制度、医療機関の役割、栄養治療学、臨床栄養学実習などの復習を徹底するように指導すべきであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

臨床現場における管理栄養士の業務と役割を理解し、栄養ケアプロセスを作成できることを目標として講義を行った。

専門応用科目として、疾患および病態の理解が重要であり、基礎栄養学・応用栄養学・栄養治療学などを理解しておく必要があるが、知識の習得に対する指導と説明が不十分であった。

医療機関や福祉施設における管理栄養士の業務と役割を理解するために、診療報酬や臨床現場の組織やチーム医療などについての説明と情報提供を十分に行うべきであった。

外部講師を招聘し、急性期病院の管理栄養士業務について講義を受けるなどにより、実践的な管理栄養士業務について学習する機会を得られたことは今後の進路や方向性を考える機会を提供できた。

臨床栄養の知識を応用する技能表現を習得させるために十分な説明と指導を行うべきであった。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、「必修科目である(78.3%)」と「資格取得に必要である(56.5%)」が高く、一方「関心のある内容である(8.7%)」は低い値であった。昨年度とほぼ同じ傾向であるが、わずかに「関心のある内容」との回答が増加している。できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように引き続き改善していきたい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績では9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はほぼ4.0であった。昨年度より平均得点はわずかに上昇しているものの、傾向はほぼ同様で、各項目の得点間にバラつきはなかった。今回の目標達成状況の改善が「意欲関心」の向上につながるように、さらに授業の工夫を行いたい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業への「意欲関心」の低さや、その点とも関連して全般的に主体的な学習活動が低い傾向になる。また、昨年と同様に、自由記述では「他の講義の課題が多く、時間がない」といった意見が多かった。しかしながら、学生は一定の成績をおさめていること、到達度自己評価も全般的に高かったこと、さらには「介護に興味をもち、インターネットで調べるようになった」との意見もあることから、昨年と同様に内容的は妥当であったと判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、昨年度と同様の傾向だった。引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」がかなり少なかった。この点については、学生が図書館やネットを利用して調べ学習を行う時間を設けるなど、引き続き学生の主体的な取組みを促したい。その一方で、授業後の学生からの感想の中には、「介護の問題を自身のこと」として受け取っているコメントもあり、授業改善の励みにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、ビデオ教材の活用、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。さらに、介護と「栄養」や「管理栄養士の働き」と関連づけて課題を提示するなど、図書館などにおける主体的な学びを促したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅰ	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、卒業必修科目であり管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、臨地実習Ⅲにも必要な科目であるが、栄養改善を通して公衆衛生の向上を図る実践科学であることがイメージしにくいことから、受講動機『資格取得に必要である』が51.6%と半数程度であると考えられる。</p> <p>②本科目の達成目標は、わが国の健康・栄養問題の現状と課題を知り、それらに対応した主要な栄養政策・施策を理解し説明でき、栄養関連法規、地域や集団の健康の保持・増進さらに疾病の予防に対する公衆栄養活動を効果的に行うために必要な知識と技術を修得しすることである。まずは、関係法規を理解すること、健康・栄養問題を理解することが重要であることから、事例を示しながら理解が深まるように努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は定期試験、レポート提出、小テストで行い、最終的な成績の平均値は78.9（±7.5）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは32名（59.3%）その中で90点以上が3名（5.6%）であった。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解の観点、意欲関心の観点であまり差がないことが示された。学生が学ぼうとする姿勢によって理解度に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、学生に学ぼうとする意欲を持たせ、課題を検討する力、課題解決のための的確な判断力を身に着けることができるよう授業内容を工夫していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、専門分野の知識を修得する位置にあり必修である。専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の達成度自己評価においても、約93%の学生が知識理解の修得ならびに意欲関心の修得等において、「達成できた」と回答しており、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.5と他の項目より低かった。事例をあげて説明を行ったが、理解できていない学生がいたこと、予習・復習の時間が少なかったことが反省点である。次年度に向けては、復習を事前に提示して自分の言葉で理解した上で授業に参加するよう促していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、管理栄養士養成施設卒業必修科目であり、専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識形成にはついては概ね達成できた。予習・復習や授業の課題以外の学習に取り組んだ学生が少ないことから、予習・復習等の提示を明確に行うことで改善を図りたい。また、必要に応じてレポートという形での課題提出やディスカッションをするなど、知識理解の達成に努めたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、臨地実習Ⅲを受講する学生の必須科目としての位置づけであり、多くの学生の受講動機が『必修科目である75.0%』『資格取得に必要である62.5%』との理由であるのは当然のことと思われる。</p> <p>本科目は、①地域栄養活動実践の概要と行政組織、②地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法、③地域栄養活動の様々な場における管理栄養士の専門的な業務や活動の実際を理解することにより、行政で活躍する管理栄養士の役割を理解することを目的としているため、行政組織や地域で活躍する管理栄養士の講義を取り入れ、行政管理栄養士の役割や公衆栄養活動の理解が得られやすくなるよう努めている。</p> <p>また、グループワークを取り入れることにより、学びを深めるよう計画した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価はレポート提出、発表で行い、最終的な成績の平均値は75.9（±6.7）点であり、理想的レベル（80点以上）に達したものは30.8%であった。</p> <p>学生による授業評価においては、意欲関心の観点、態度の観点、技能表現の観点で大きな差がないことが示された。学生が学ぼうとする意欲や関心が態度に現れ、そのことにより技術の修得に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、学生が学ぼうとする意欲を持たせ、行動や技術の修得につながるよう授業内容を工夫していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.1と他の項目より低かった。行政管理栄養士の業務を理解してもらうために毎回講義内容が異なったため、理解できていない学生がいたことが考えられる。また「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであったか」の項目において、「そうでない」と回答した学生もいたことから、学習の範囲や課題について丁寧に説明するべきであったことが反省点である。次年度に向けては、質問の時間を設ける等工夫をしていきたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.1と他の項目より低かった。行政管理栄養士の業務を理解してもらうために毎回講義内容が異なったため、理解できていない学生がいたことが考えられる。また「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであったか」の項目において、「そうでない」と回答した学生もいたことから、学習の範囲や課題について丁寧に説明するべきであったことが反省点である。次年度に向けては、質問の時間を設ける等工夫をしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識形成については概ね達成できた。予習をしない学生が54.1%、復習をしない学生が45.8%、課題以外に学習に取り組まなかった学生が66.7%いることから、授業構成を工夫して、管理栄養士への道を達成するための意識改革を図りたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学実習	2	後期	必修	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機に対する回答で、すべての学生(48名中48名)が「必修科目である」ことを理解しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」ことを自覚しているのは58.3%と多くはなく、また、「関心のある内容である」と答えたものは12.5%と少なかった。栄養学の基礎知識・技術が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも活用できる重要な基礎的事項であることは、例年、強調しているが、なかなか浸透しない。関心が高まるように、できるだけ具体的な事例に結びつけて説明していきたい。</p> <p>②2022年度はある程度新型コロナウイルス感染が落ち着いたので、すべての実習を対面で実施した。ただ、可能な限り密にならないように間隔をとって着席し、換気にも十分留意して実施した。また、実習中はマスクを着用し、グループ作業も必要最小限にとどめるようにした。</p> <p>③それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1、2年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の成績評価は、昨年と同じく実習課題のレポート（45%）、「知識・理解」・「思考・判断」を評価する期末試験（45%）および、「関心・意欲」を評価するその他（10%）とした。</p> <p>②実習成績の平均点は、Aクラス74.2±14.0、Bクラス79.6±11.4であった。本試験の合格者はAクラスが28名中25名、Bクラスが29名中27名であった。Aクラスの不合格者3名のうち2名は再試験で合格し、1名は再試験の科目制限で受験できなかった。Bクラスの不合格者2名は、2名とも再試験で合格した。90点以上の好成績を修めたものは、(Aクラスで6名、Bクラスで8名)であった。昨年(平均点A:90.1、B:89.5)に比べると平均点がかなり下がっているが、昨年の期末試験(筆記試験)はオンラインで実施したため「授業資料・教科書持ち込み可」の試験になっており、そのため点数が大きく上がったことが影響していると思われる。実習課題レポートの成績は昨年と比べて大きな差はなかった。</p> <p>③今回の実習は、すべて対面で実施したが、新型コロナウイルス感染予防のため、一つの測定は各グループの代表一人が責任を持って実施するようにした。実習でグループ作業ができないのは実習本来の目的からは逸脱する面もあるが、学生の授業評価アンケートの”到達度自己評価”においては、この科目のDP1(知識・理解)、DP2(思考・判断)およびDP3(関心・意欲)に関連する項目(1)～(6)の評価点が3.9～4.1で、同じく対面で実施した2021年度(3.8～4.0)とほぼ同じレベルかやや高い評価であった。特に、項目(2)「知識の確認・修正」(4.1)、(3)「事象を理解する視点・考え方」(4.0)、(5)「的確に判断する力」(4.0)、(6)「学びを深める意欲」(4.0)が比較的高い評価であった。以上より、おおむね教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
2022年度の実習は、コロナ感染がある程度落ち着いたことからすべて対面で実施したが、感染予防のためにグループ作業をできる限り制限した。実習の目的の一つであるグループ内での共同作業が十分できなかったのは、やむを得ないことであったにしても、実習としては残念なことであった。ただ、グループ内の代表者一人とはいえ、実際の測定を経験する機会が増えたのは、昨年オンライン実習よりよかった点である。測定結果に対する考察、実習テーマに関する設問への回答などは、代表者が測定したデータを共有することによって、各班員が個別に実施することができた。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
各実習の課題レポート、期末試験については、全員がほぼ良好な成績を収めていることから、DP1～3が目指す目標のうち、「栄養学の基礎的知識を栄養指導・栄養教育の現場に活用できる」という基本的な部分は、おおむね達成できていると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度(2022年度)の実習は、コロナ感染予防に十分注意してすべて対面で実施したが、「授業の質評価」の評価点(3.7～4.1)は、昨年度(2021年度)の実習(対面で実施したが測定そのものは教員によるデモまたは動画で実施)の評価(3.8～4.1)とほぼ同レベルの評価であった。項目別に比較すると、項目(1)「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」および項目(2)「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」の得点が共に4.1と比較的高い評価(栄養学科平均各々3.8, 3.9)であった。項目(3)「説明の理解しやすさ」(3.7)は、昨年より-0.1下がっていたが、栄養学科平均(3.6)よりは+0.1であった。実習レポート、期末課題の成績もかなり良好であったことより、授業の目標は概ね達成できたと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①実習レポートおよび期末試験の成績が良好であることより、栄養学の基礎的な知識の形成については、概ね達成できたと考える。
②実習の説明スライドが分かりにくいという学生からのコメントがあったが、毎年分かりやすくなるように改訂しているつもりであるが、更に、学生の要望も聞きながら改訂していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	花田 浩和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習	3	後期	必修	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、「必須科目である」83.3%、「関心がある内容である」3.3%であった。</p> <p>「専門基礎科目」および「専門応用科目」の知識を基本として、臨床現場における栄養管理と食事管理に繋げるための科目であり、疾患と病態を十分に理解しておく必要がある。</p> <p>講義では、可能な限り図や表を使用し、視覚的に疾患の特性と病態を理解できるように配慮した。</p> <p>また、調理実習では、栄養治療の目的と目標を示し、疾患ごとに標準的な栄養素組成の献立を使用して実習を行った。</p> <p>臨床現場で使用している栄養剤の試飲や治療用特殊食品の試食などを実施し、経腸栄養管理や栄養量調整を理解しやすいように講義を行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>定期試験の平均点59.9点であり、受験者数69名に対して34名が合格点に達することができなかった。</p> <p>「授業の質評価」(平均値3.4～3.6)が低く、「到達度自己評価」(平均値3.3～4.1)が低いことから、十分な知識と学力を習得させられなかった可能性がある。</p> <p>本科目は、疾患の特性と病態、栄養管理の目標を理解しておくことが重要であることから、講義では疾患の基礎知識と病態、治療目標などを解説し、栄養管理や食事療法について実習を行った。しかしながら、疾患治療と栄養管理の繋がりについて十分に理解を深めることができなかった。</p> <p>「情報利用」「図書館利用」が少なかったことから、情報利用や図書館利用を増やすために、学習のテーマや課題を明確に示すべきであった。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本教科は、これまで学んできた「専門基礎科目」と「専門応用科目」の十分な知識と理解が必要である。
臨床現場における管理栄養士業務の基本となる学習であり、DC、CP、カリキュラムマップにおける位置づけは妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は、これまで学習してきた「専門基礎科目」と「専門応用科目」の知識が必要である。受講に当たり、予習すべき学習課題と内容を明確に示し、十分な予習ができるようにすべきであった。

また、学生さんの意見に「説明時間が長く、調理実習時間が少なかった。」とあることから、事前学習の指示を徹底することと合わせて、講義内容を整理して時間を短縮すること、講義内容を明確にすることなどにより、十分な調理実習時間を確保すべきであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門応用科目として、疾患および病態を理解し、臨床栄養管理を行う能力を習得することを目標として講義を行った。
目標栄養量の設定と実習に使用した献立は、各疾患ごとの学会ガイドライン等の基準を参考に作成し、臨床栄養管理を理解できるように配慮した。
臨床栄養管理の理解度を高めるために、疾患や病態について予習と復習を徹底するように指導を行うべきであった。
臨床栄養の知識を応用する技能表現を習得させるための説明と指導を十分に行うべきであった。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、必修科目であり、臨地実習Ⅲを受講する学生の必須科目としての位置づけであり、多くの学生の受講動機が『必修科目である96.3%』との理由であるのは当然のことと思われるが、『資格取得に必要である』が51.6%と半数程度であることは、地域集団の栄養・健康づくりを推進することと管理栄養士の専門知識に必要であることが関連できにくいことからくるものと思われる。</p> <p>本科目は、①対象集団や地域の特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。②健康的な食環境を提案することができる。③適切なニーズアセスメントを選択・実施し、プリシードプロシードモデルに基づいた評価判定ができる。この技術を修得することにより、地域で行われている健康・栄養改善活動業務の中での管理栄養士の役割を理解することを目的としているため、よりよい公衆栄養プログラムを作成するためグループで協議を行い完成していく課程を修得するため実習を中心として、学びを深めるよう計画した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価はレポート提出と発表で行い、最終的な成績の平均値は75.3 (±5.4) 点であり、80.6%の学生が標準的レベル(70点以上)に達した。理想的レベル (80点以上) に達したものは23.9%であった。</p> <p>学生による授業評価においては、意欲関心の観点では大きな差はないが、知識理解の観点、思考判断の観点で差があることが示された。学生が学ぼうとする意欲や関心はあるが、知識理解や思考判断力の差が技術の修得に差が生じることが考えられる。次年度に向けて、知識や理解力、思考判断力を身につけさせるよう授業内容を工夫していきたい。</p> <p>学生による授業評価においては、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」が他よりも低いことから当初の目的が達成できなかったと考えられる。</p> <p>次年度に向けて、学生が学ぼうとする意欲や関心を引き出し、知識理解、思考判断力が修得できるよう工夫していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は専門教育科目であり、専門分野を修得するための実習に位置付けられており、必修である。専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。専門職業人としての知識の修得に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
学生の達成度自己評価においても、約90%の学生が知識理解の修得ならびに意欲関心の修得等において、達成できたと回答しており、内容的には妥当であったと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が2.9と他の項目より低かった。より具体的な事例をあげたり、グループワークでは各グループを回りながら説明を行ったが、それでも不十分であったと考えられる。また、「授業の課題以外に学習に取り組んでいない」学生が66.7%いることから、学習意欲を持たせる努力が足りなかった。次年度に向けては、質問の時間を設けたり、グループワークの進捗状況に沿った助言をするようにしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、管理栄養士養成施設卒業必修科目であり、専門職業人である栄養士・管理栄養士を目指す学生が全員受講している専門教育科目である位置づけから、専門分野の知識理解の修得については概ね達成できた。グループワークで公衆栄養プログラムを作成することから、自分で調べることが必要であるが、図書館を利用していない、学術データベースを利用していない学生が半数以上いることから、先行事例を調べることをもっと取り入れ理解を深めるように工夫していきたい。またディスカッションの回数を増やし、知識理解の達成に努めたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅰ	4	通年	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生になって、国家試験の受験を目標に、社会、環境と栄養、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学、解剖生理学、生化学、食品学、食品衛生学、基礎栄養学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は61.9 (±14) 点であった。標準的レベル（概ね70点以上として試験を作成）に達してなかった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は上昇した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「過去問を解いて復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
本科目は「専門応用科目」である。管理栄養士国家試験を受験するために非常に重要である。学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性
成績評価から、知識判断、思考判断に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.8と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。

学生の意見としては、「国試の過去問など問題集を分野ごとに作っていただき勉強しやすかったです」、「授業資料をクラスルームにあげて学生たちが何回も問題を解けるようにしたほうがいい」という意見あり、今後改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。
授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が検討を加える時間ができた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。
以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。
配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、クラスルームにも配布し、来年度にむけて改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『応用栄養学』『栄養教育論』『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』分野の管理栄養士国家試験の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであることに加え、学生全員が『国家試験合格』を目標としていることから、多くの学生の受講動機が『必修科目である83.3%』『資格取得に必要である70%』との理由であるのは当然のことと思われる。管理栄養士演習Ⅰ、Ⅱは週2コマの講義であり、この講義のみでは国家試験対策としては到底不十分であることから、2022年度も、別途、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ担当教員による国家試験対策の補講を実施した(前期：6コマ/週、後期：8コマ/週および夏期補講)。さらには、昨年度の管理栄養士国家試験結果を受け、国家試験直前の学習対策に関しても、対面で実施し、授業時間以外でも自主的に学習できるように、国家試験受験への手厚いサポートを行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1およびDP2は本試験の結果から評価した。本科目の本試験成績の平均値は61.3点(44名)であり、73%の学生のみ標準的レベル(60点以上)に達することができた。残りの27%は本試験不合格であった。実際には、『優：4名』と理想的レベルに達している学生は9%しかおらず、『良：13名(29%)』『可：15名(33%)』であった。しかし、学生の到達度自己評価では、97%の学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答しており、学生による自己評価と試験結果に乖離が見られた。一方、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』(87%)と多くの学生が回答していた。このことから、学生の自主的な学びの科目としては、本科目における教育目標は達成できたものと予想されるが、今回の第37回管理栄養士国家試験合格率は、91.4%と、昨年度の84.1%よりは上がったものの、受験者数が少なく、この結果を受け、次年度以降は受験者数を増やすことを意識しながら、1月に実施される本科目の本試験の時点で、「標準的レベル」にまで学生達を至らせることが、管理栄養士国家試験合格への必須事項となることが考えられる。本科目の本試験の時点で標準的レベルに至ることが出来なかった学生たちが、再試験にて受験資格を取得した場合の国家試験までのフォローについても、学科で検討を重ねる必要があると考える。</p>
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、4年次に通年科目として開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、約97%の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、「達成できた」と回答している。達成度評価については、学生個々が国家試験合格を目標としているのであれば、履修者全員が標準的レベルを達成すべきではあるものの、実際は73%（本試験結果）と大変低い値であった。しかしその後のフォローもあり、第37回管理栄養士国家試験において、91.4%の合格率であったため、この教科の内容的妥当性についてはほぼ問題ないものと考えるが、講義形式や国家試験直前のフォローについては毎年度学生の修学レベルや学習環境に応じて検討する必要がある。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、予習復習の時間は約23%がゼロと回答したにも関わらず、自発的学習として、『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)約87%』と回答していたことから、実際には、予習復習の時間は確保されていたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の管理栄養士免許取得のための科目として位置づけられてはいるが、2022年度も標準的レベルに達した学生が少なかった点に関しては、毎年度の学生の学修レベルを考慮し、試験方法、予習・復習の実施等の見直し等行っていく必要はある。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しているので、講義内容等についての問題はないものとする。今年度の国家試験結果を受け、遠隔ではなく対面による講義や模試の実施が可能だったことが、昨年度よりも合格率を上げることにつながった一因であることが考えられ、今後も提供できる学習環境の整備を含め、国家試験直前まで、学科として学生にフォローしていく必要があり、常時の検討課題とする。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。</p> <p>③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上1名、80点以上90点未満2名、70点以上80点未満4名、60点以上70点未満4名、レポート未提出（単位の放棄）0名、平均点71.1であった。授業全体で90点以上は8名なので、上位者の割合、平均点も、低調である。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の意見に、素材が古いという意見があったが、「コアカリキュラム」でも教育思想史や制度史に触れることを求められており、歴史の授業は不可欠である。学生の中に歴史学習への意識がないのか、あるいは授業方法が合わないのかわからないが、「歴史嫌い」があるとすれば興味を持てる歴史授業を構築する必要がある。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

①教育学の基礎に関する総括的な授業であるために、教職への志向を高める内容が不足していた。2年時の教職概論との連携を考えて授業内容の構成を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○全学科：平均点83.3点、秀14人 (20.6%)、優34人 (50.0%)、良17人 (25.0%)、可2人 (2.9%)、不可1人 (1.5%)。SD8.04。</p> <p>○栄養学科 (本年度)：平均点80.7点、秀1人 (14.3%)、優2人 (28.6%)、良4人 (57.1%) 可0人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD6.95。</p> <p>○栄養学科 (昨年度)：平均点89.4点、秀6人 (50.0%)、優4人 (33.3%)、良2人 (16.7%) 可0人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD6.64。</p> <p>○昨年度と比較して平均点が低下したが、出題難易度や持ち込み等の試験条件の変更に伴う影響も考えられる。可や不可がないのは評価できるが、他学科と比べると、良が目立つ。</p> <p>○非常に優秀であった昨年度成績と比較すると落ち込みが目立つ。</p>					
<p>*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○昨年度と同程度の学習内容・程度であった。

○試験問題や昨年度より思考を求めるものが増え、やや難化した。

○本年度は次の2点に取り組んだ。(1)レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。(2)オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。

○到達度が昨年度より低下したのは、試験問題の難易度などが影響したと予想される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○本年度はある程度満足できる結果であった。平均点は優レベルであり、知識の定着については問題ない。思考を求める問題への対応が課題となる。

○昨年度は不可の学生がいたが、本年度は可・不可がおらず、基本的な動機付けの改善という前年度の目標は達成された。

○次年度はより思考力を要求する授業内容を充実させ、試験の要求レベルも上げていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、本科目の骨子が規定されていることから、教育課程の原理的歴史をまず教授し、次いで現代的な教育課程をめぐる問題について取り組んでいる。</p> <p>③2年生後期となって、少しずつ教職への意識がめばえている。したがって、教職を意識しつつ、具体的な教員としての資質形成につながるような工夫を行った。</p> <p>④学生同士の意見交換などのような学修上の主体性を大事にしたいと思い、グループワークを半分近く取り入れ、また反転授業にも取り組んだ。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、ミニレポート、期末レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上0名、80点以上90点未満3名、70点以上80点未満2名、60点以上70点未満2名、レポート未提出（単位の放棄）0名、平均点75.1であった。とびぬけた学生が不在で、全体として低調な成績であった。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、少しずつ慣れてきて意見の要約を構造的にできるようになってきた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の自由記述にほとんど記述がない。授業の感想は毎時間書かせているのでそこで授業の反応はわかるが、後期全体の感想がほとんどないというのは、一考の余地があるだろう。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①教育課程論という学科の専門科目と全く異なる分野の学修への動機は、教職希望ということをお案してもなかなか高めがたい。アクティブラーニングをできるだけ導入して、学生の主体性に期待する授業構成を目指しているのであるが、学生自身にこれまでしみついた受動的な姿勢からの転換が難しい。少しずつでも、受動的な姿勢から能動的な姿勢へ転換できるように、工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論II	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>指導者からの一方的指示ではなく、学生の主体的な学びを目指した。そのため、まず、1分間スピーチを殆ど毎回設定して、相手を意識したスピーチ力の向上に努め、授業中の話し合い活動を活性化させた。1分間スピーチは、児童生徒の発達段階に合わせた言葉使いへの関心を高めるのにも、有効であった。授業構想に関してプレゼンテーションをする場面においては、「プレゼンテーション・話し合い・修正・プレゼンテーション」を繰り返させて、理論だけでなく実感としてとらえさせるように努めた。</p> <p>また、配布資料は、実際の学校現場を体感させるものとした。</p> <p>本授業そのものや、教育実習への学生の意識が高まったのは、こうした授業のやり方の成果であると考えている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>ペーパーテストはもちろん、スピーチ、授業中の発言、プレゼンテーション、ノート整理なども活用して、評定した。独自に設けた5段階評定によると、学生の平均は、3, 9点であった。そして、最高点の学生は、4, 98点で、最低点の学生も3, 97点であった。</p> <p>学生達自身は、「コミュニケーション力の向上」「専門分野の技術の向上」を評価している。</p> <p>これらの結果から、目標は達したと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP…学生は良い成績であり、内容的に妥当であるとする。

CP…本科目は、栄養教諭の実践的な実務を体系的に深めていく科目である。学生は良い成績であり、内容的に妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生は、「授業中に自分達が参加する機会が設けられていた」ことを評価している。昨年度の状況から、今年度も重点的に配慮してきたが、効果があったと考える。

学習量に関しては、予習をしてくる学生が少し増えたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

栄養教諭の実務を具体的に自分に当てはめていく第一歩の科目として、基礎的な知識理解や思考判断、意欲関心、態度、技能表現は、達成できたと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育実習事前事後指導	3~4	三期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生が主体的に学ぶ授業を目指した。</p> <p>そのため、講義が中心となる授業においても、スピーチ練習を取り入れたり、学生の調査活動を入れた後での討論の時間を入れたりした。</p> <p>教育実習に向けての模擬授業においては、児童への発問から板書計画まで、具体的に細やかに指導した。</p> <p>現場の栄養教諭の実践発表の場においては、質疑応答の時間を多く設定した。</p> <p>教育実習後の授業では、反省事項とその改善策を具体的に考えさせて、今後の実践にすぐ活かせることを目指した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>レポートや授業中の発言、スビート、模擬授業など、多様な視点から評価をした。独自に設けた5段階評価で、学生の平均は、4, 21点と高得点であった。学生自身のアンケートでは、「自分の到達度」への評価が高得点であった。</p> <p>一方、教育実習校からは、多くの学生の授業指導技術の高さを言われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP⇒本科目は、栄養教諭の実践的な内容を深めていき、学校での実践へとつないでいく科目である。学生は、良い成績であり、内容的に妥当であると考える。

CP⇒学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生は、実習後の感想として、「実習が上手くいって、楽しかった」「準備は大変だったが、準備をばっちりして、良かった」などの感想が多かった。教育実習に意欲的に取り組んだのである。

実習後は、パワーポイント原稿を各自で作成して、3年生の前で立派に実習報告会が出来た。

実習先の学校からは、殆どの学生が、授業指導のレベルが高いとお褒めをいただいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目の達成状況は高いと、総括的に判断する。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	扇谷 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（栄養教諭）	4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目には、栄養教諭を目指すコースと養護教諭を目指すコース、英語教諭を目指すコースがある。</p> <p>栄養学科だけで授業を実施する場合には、学生の活動を中心に授業を展開した。授業のめあてを決定した後は、学生同士が協議しながら活動を進めていった。指導者は助言や励ましを適時することによって、授業が適切に実施されてめあてが達成されるように努めた。また、これからの教員はICT教育の実施が必須であるため、意見や結果の発表は、全てパワーポイントとさせて、スキルの向上を目指した。</p> <p>3コースが一緒に行う授業における講話においては、授業実施後1週間以内にレポートを必ず提出させた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>プレゼンテーションや協議での発言、レポートなどで、多様な視点から評価した。独自の5段階評価規準を活用したが、平均は4、3点と高得点であった。最低点の学生でも3、8点で、最高点の学生は4、9点であった。学生へのアンケートでは、「授業の質評価」が、好評である。</p> <p>また、本科目の最終授業では、管理栄養士国家試験準備の忙しい時期ではあったが、「私は、このような教師になりたい」とのポスターを多くの学生が熱心に描き、熱弁を奮った。</p> <p>これらの結果から、目標は達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 → 本科目は、教職課程におけるまとめの科目である。学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考え。

②DPからみでの内容的妥当性 → 学生は良い成績であり、内容的に妥当であると考え。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

まとめの感想の中で、学生達は「自分達で話し合いながら進めていったので、楽しかったし、自信が出てきた。」「ますます、栄養教諭になりたくなった」などの感想を記述していた。栄養教諭にならない学生も、「管理栄養士として患者さんに指導する時に役立てたい」、「会社でのキャリアアップのために、パソコンスキルをこれからも学び続けたい」などと、前向きな感想を述べていた。いずれにしても、どの学生も、教職コースで栄養教諭免許を目指したことは良かったとのことであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目の到達状況は良いと、総括的に判断する。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	栄養学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育におけるICT活用	1	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教育におけるICT活用は、本年度からの新規開講科目であり、全学の教職課程1年次生全員が履修する科目である。授業は複数の担当者がオムニバス形式で授業を行い、またICTの利活用に関する外部講師を招いて授業を実施した。</p> <p>学生が教育現場における情報通信技術の活用方法やその歴史的経緯、現状、今後の方向性について理解を深めることができるよう指導を行った。</p> <p>教育におけるICT活用方法の他、学習評価や公務におけるICT活用、教育データの活用などを取り上げた。教育におけるICTの活用について理解を深める科目であることから、本授業内においても課題の提出や意見発表、意見共有を積極的にICTを活用して行うよう授業を工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0満点中4.3、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.3、「説明は理解しやすいものであった」は4.1、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は3.6、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は3.5と概ね良好であった。講義が中心となる授業形態であったため、今後は学生が話し合ったり、意見を発表し合う機会を多く設けるよう工夫したい。また、毎回の授業で終了時に質問等を受け付ける振り返りシートを全員が提出しており、次回授業で回答のフィードバックを行っており、今後も引き続き学生の質疑応答を心がけたいと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は5.0満点中4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は3.9、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は3.8であった。今後さらに担当者全員が共通して学生の自己評価を向上させられるよう授業を工夫するよう努める。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職課程の学生たちのICT活用力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職を目指す学生たちの指導に力を尽くしたい。